

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	3470205232		
法人名	株式会社 ハーモニー		
事業所名	グループ・ホーム ハーモニー横川		
所在地 (電話番号)	広島市西区楠木町1丁目12-3 (電話)082-291-8400		
評価機関名	特定非営利活動法人 NPOインタッチサービス広島		
所在地	広島市東区福田1丁目167番地		
訪問調査日	平成19年11月22日	評価確定日	平成19年12月5日

【情報提供票より】(19年11月 6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 10 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤	16 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 8.525 人

(2) 建物概要

建物形態	併設 単独	新築 改築
建物構造	鉄骨造り 3階建ての 2階 ~ 3階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,500 円	その他の経費(月額)	61,200 円	
敷金	有(150,000 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	名	男性	3 名	女性	14 名	
要介護1	2 名	要介護2	10 名			
要介護3	5 名	要介護4	名			
要介護5	名	要支援2	名			
年齢	平均	81 歳	最低	64 歳	最高	93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	総合病院 福島生協病院 ・ 平岡内科クリニック 等
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは買物や交通の便利な広島市の中心部に位置し、近くには災害時の避難場所にも指定されている公園があり、毎日の散歩に利用され、地域とのコミュニケーションに役立っている。
「障害を持つ高齢者にほえみを」を理念に、利用者のADLをできるだけ低下させぬよう、月2回の音楽治療、朗読会、一日一回の外出を心がけるケアが実行されている。利用者の尊厳と安全を第一に、利用者が安心してゆったりと過せるように取り組まれ、運営されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価の改善点について職員会議などで良く話し合わせ改善に向けて又ホームのサービス向上に向けて努力している姿が窺われる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価の意義はよく職員間で理解されミーティングなどで話し合っ問題点をさぐり、ホームの質の向上に向け役立っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 利用者・家族・町会長・ボランティア・平岡内科クリニック院長や中広地域包括支援センター・ホームの職員のメンバー構成で運営推進会議は2ヶ月毎に行われ、いろんな意見を出してもらいホームの運営に役立っている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族訪問時に近況を伝え意見要望を聞くようにしている。又毎月2回請求書・領収書発送時に、写真や手紙を書き近況を知らせている。御意見箱も設置され苦情や相談先も説明書に記載されているがホーム便りの早期実現が望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会の行事に参加したり、ご近所に声掛をして地域との連携に努力しているが、まだ充分とは云えない。ホーム便りを発行したり、1階のホールを有効に活用してさらなる地域との連携を深められることを期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム独自の「障害を持つ方とその家族にほゝえみを」を理念として地域の中で明るく楽しい雰囲気の中でゆったりと過せるように心掛けている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の会議や日々のミーティングなどで繰り返し理念の共有化を図っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	オフィス街の中に位置しているため困難な面はあるが、利用者との毎日の散歩中積極的に挨拶を交したり、地域の行事に参加するなどして関係を深めるように努力している。	○	1階のホールを開放するなどして地域とのつながりを一層深められる姿を期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義はよく理解され指摘された課題については、よく話し合い改善に努力している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長・包括支援センター・平岡クリニックの医院長・朗読ボランティアの方・ご家族・利用者・職員で2ヶ月毎に開催され、その助言や意見をホームの地域に密着したサービスと質の向上に活かされている。		

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	常に市との連絡は積極的に行っている。 市事業の受託は母体である医療法人「ほへみ会」が取りまとめ行っている。		より一層市との連携を深めホームのサービス向上に役立てられることを期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問されたご家族にはその都度近況をお話している。 又毎月2回(請求書と領収書の発送時)手紙と写真をそえて利用者の状況をご家族に報告するようにしている。		ホーム便りを早く作られることを期待する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や家族の訪問面会時に意見を聞くようにしてそれを運営に反映させている。 ご意見箱も設置されている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	特別な事情が無い限り職員の異動は行わないようにして、あった時は情報伝達を密にして利用者の動揺を防ぐようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時に研修を行い、その後も出来るだけ研修に参加させている。受講した職員はホームで伝達講習を行っている。管理者研修は主としてグループ内で行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループ・ホームの交流会や研修会には積極的に参加して情報交換に努め、それをホームのサービス向上に役立てている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループ・ホームの行事参加又体験入居や見学をしてもらいホームに馴染めるよう、ご家族とも相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	明るい雰囲気作りに努めその人の能力に応じた事を(掃除・料理の手伝等)一緒にして互いの信頼関係を築くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で利用者の希望や意向を把握するように努めている。 家族の方からもその方の生活歴など情報を得るようにして、その人らしい生活が出来るように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の意向や家族の意見を聞くともに、職員のアイデアも入れて、その人らしく生活出来るような介護計画が策定されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に介護計画の見直しを行っているが、状態の変化や家族の要望があればその都度介護計画の見直しを行うようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望や状況に応じて通院や送迎など臨機応変に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望があればかかりつけ医院への受診を支援しているが、提携医による毎月1回の往診、投薬者は月2回の通院を行っている。また、年2回の健康診断を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化した場合の事をご家族に説明すると共によく相談して利用者の終末期に向けての方針をたてている。また、書類による確認も行われている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを傷つけないように言葉使いに注意している。特に排泄やその他の失敗した時の言葉かけには気配りをしている。 個人情報は詰所に一括管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家族がどのように過してもらいたいと思っているか、利用者が何を望んでいるかを相談しながら、利用者一人一人のペースと生活の流れをつかみゆったりと毎日が過せるように支援している。		

NPOインタッチサービス広島

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る人には職員と一緒に食事の準備や片付けをしてもらい楽しい食事となるように雰囲気作りをしている。	○	職員が利用者の食事を見守りサポートするだけでなく、月何回かでも、一緒に食事を楽しむことを検討されたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴する曜日と時間帯は決められているが、利用者の状況や希望があれば臨機応変に対応し、支援している。体調のチェックの機会もとらえている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者各人の出来る事・得意な事を把握し日々の生活の中でその力を楽しみながら発揮出来るように支援している。月2回の音楽療法、ボランティアによる朗読会も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	利用者が閉籠らないよう、一日一回の外出を原則に、出来るだけ散歩や買物など各人の気持ちを大切にしながら外出の支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	市の中心部で車も多く安全上、ご家族の要望もあり出入口は施錠しているが、一日一回以上近くの公園などへの散歩をしたり外出の機会を増す様にしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時に慌てずに避難できるように訓練を行っている。又階段の登り下りと避難場所である公園には天気の日には毎日散歩するようにしている。	○	消防署と相談し、最低でも年一回、利用者を含む全員による避難訓練の実施を期待したい。また、運営推進会議や情報誌等を通じ災害時の地域の協力が得られるような体制づくりも望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は個別にくわしく記録されファイルされており、職員が共有し介護計画に役立っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂・キッチン・ホールが一体となっていて、壁には利用者の写真や季節感のあるものが飾られ、照明・換気・音なども気配りがなされ、家庭的な雰囲気の中ゆっくりと過ごせるよう配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者にとって使い慣れた家具や道具が持ち込まれ各人が心地よく過ごせるように、飾り付などがされている。		

NPOインタッチサービス広島

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念の基づく運営				
1 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	外出から帰ったらホッと出来る家を作ろう！！自分の大切な家族をあずけたくなる家を作ろう！！を目標に日々努力している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	「障害を持つ方とその家族にほほえみを」を理念に安心して楽しく生活を営むことが出来るよう取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。	散歩・買い物にとどまらず地域に知って頂く努力をしてゆきたい	○	ホーム便り等 検討し啓発に努めてゆきたい
2 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩時や買い物時に気軽に声をかけて頂いている	○	交流スペースの活用方法を広げてゆくよう検討してゆく
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	商店街の利用や散歩時には近隣の方と会話をもつ等 交流に努めている。	○	ホーム便り等 検討し啓発に努めてゆきたい

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	利用者と共に何が出来るか?を話し合はするものの体調不慮や天候等の兼ね合いもありなかなか実践出来ない。	○	公園の掃除等行ってゆきたい
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	見つけ直すきっかけとして必要な事は改善に努めている		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	実際の取り組みとそれによる効果を報告し意見を頂いている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	疑問があれば躊躇せず、まず聞いてみるという姿勢で質の向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	必要と判断される場合は家族に勧める事もある。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修会の積極的な参加及び伝達講習を行う。また情報を共有する事により1人で悩みを抱え込まない様努め、虐待に結びつかない様に注意をはらっている。		
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	疑問点にはお答えし信頼関係に努め、安心して過ごしていただける環境を提供している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	意見を取り入れたり反省材料にさせて頂いたりと前向きに取り組んでいる。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	利用者また家族により求められる事が違うため出来る限り求められる情報報告が出来るよう努めている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議に伴い事前に要望等をあげて頂き運営に反映させる事が出来るよう支援している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者と話が出来る機会は設けているが、なかなか反映まで結びつかない。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務調整は行っている。また、管理者は状況の変化を把握し必要時柔軟な対応が行えている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	特別なことや職員のスキルアップが無い限り異動は実施していない。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	経験に応じた研修の参加等 実施している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホームの勉強会に参加し情報交換に努めサービスの向上を図っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	同僚の良いところを言い合う・悪口は言わない・お互いに注意しあえる関係作りに努め、働き易い職場を作ることを目指している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	悩みの共有と解決への努力に努めている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	信頼関係作りを大切にしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族が考えて行く事が出来るよう悩みを共有し支援している。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	何が必要かを考え他のサービスを勧める事もある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	見学や行事参加・体験入居を勧め少しでも不安が軽減出来るようサポートしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生きがい作りを支援し達成感を共に分かち合える様サポートしている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	その方と向き合い信頼関係を築き、また安心して話が出来よう努力している。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	若い頃からの本人との関係や認知症になられてからの家族の思いや葛藤・関係を充分把握に努め、かつ家族とよりよい関係及び支援がおこなえる様に支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の依頼で面会制限がある方もおられるが、基本的には自由な面会を推進しており、たとえ本人が面会者を忘れておられても状況を察知しフォローに努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	閉じこもりを少なく出来るよう利用者同士が良い関係を築けるようサポートしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	相談しやすい雰囲気のもとにサービスが終了出来るよう心がけ、希望時は必ず相談に応じる。また必要時にはアプローチを行う場合もある。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個人の意向を大切にしているものの家族の事情もあるため、何が本人にとってベストなのか?とすることを念頭に家族と検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴から一層個人の理解が深まると考えており出来る限りの情報収集と情報の共有化に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個々人の性格・その日の状態等把握しサポートしている		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアスタッフの情報を重視しまた本人の状況と希望を最大限尊重しながら家族の意向を踏まえ介護計画を立案している。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態が著しく変化した場合はその都度 ケア計画を変更している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ケアに取り組み 色々なアプローチが出来るように情報の共有化に努めており、個人にあったケアプランの作成を行っている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	可能な限り支援している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	区民センター等の催しに参加したり、ボランティアの方と馴染みの関係が作れるよう支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他のサービスを利用したいとの意向は今の所見られないが必要に応じて検討していく。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議にての情報交換や日常においても相談しやすい関係作りに心がけている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居者がホームドクターとの信頼関係を築ける様に支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	必要時にはその都度 認知症専門の医療機関に相談出来ている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常勤看護師による健康管理および主治医との連携に努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時はこまめに面会にゆき不安感の軽減を図っている また、主治医や担当看護師、医療相談室とも連携をとり情報交換に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	入居時に重度化した場合の説明を行い、又 家族の意向等聞き取りながら、医療機関と連携もとりその方の将来の方針を考えている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	入居前より家族へ特養申込をして頂く様に働きかけ、情報を提供している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	家族とともに本人にとっていつの時期に・どんなところが等、協議しながら情報を集めながら行っている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	個々の性格や個性を充分理解し尊敬の念を忘れずサポートしている。記録等は詰め所に保管している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	信頼関係と馴染みの顔になれる様努めながら、穏やかな生活を送ることが出来るよう支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日中ゴロゴロしないよう働きかけは行うが強制はしないようその方にあわせたサポートをしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	近隣でお店の協力も得られるようなら、家族に了承を得て支援している。化粧品や衣類等一緒に購入する事もある。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき た項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	共に食事をする事にチャレンジしてみたが、嚥下の悪い方等もおられ事故を未然に防ぐ事や早期発見を考慮し断念したが、食事中見守りをしながらお茶を頂いたり会話したりと和やかな雰囲気作りには努めている。調理や後片づけは共に行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒や煙草の希望があっても本人の疾患や薬の内容によっては困難な場合もある。おやつや飲み物は共に作ったり買い物に行ったりしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	その方の排泄パターンに応じたトイレ誘導の実施と、可能な限りオムツ外しに努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	安全の確保に努めており必ず職員が介助している為、時間・曜日は決めているが、その時の状況により臨機応変に行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活のリズムが崩れない様に配慮しながら支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	趣味や興味のあることを探し出し楽しんで張りのある生活を送ることが出来るよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人が管理できる方は所持して頂き買い物等して頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	可能な限り散歩・買い物等外出している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	家族との外出は推進しているが、個々人の希望通りに施設の方から外出する支援は困難である。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族の了解が得られる方は希望時には電話の使用をして頂くが、認知症の不定愁訴の場合は訴えを見極めて支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族と密に情報交換を行い、家族も居心地よく過ごせる関係作りに努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者の尊厳を第一に考えている為、身体拘束は行わない。しかし生命の危機に関わる事が生じた場合は家族の承諾のもとで行う場合もある。(幸い現在までに行った事はない)		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室には希望者以外は施錠していないが、階段室等事故が起こりやすく、町中で車の通りも多いため家族の要望もあり十分な理解のもと施錠している。 1日1度は外出できる環境作りをおこなっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に利用者の把握に努めこまめな安否確認と訪室しやすい関係作りに努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物や針などは施設の備品を使用して頂いているが、鏡や化粧品・シェーバー等はその方の状態にあわせ居室にお持ちである。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急マニュアル作成し周知徹底と個々にあったケアに努めて事故防止をしている。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	応急処置・緊急マニュアル作成し、またミーティング時対応訓練を行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	利用者が避難訓練と理解できずパニックになられる方が多いため、職員が慌てず速やかに消火活動や誘導が出来るように訓練を実施している。また利用者は日々階段の登り下りと1次避難場所である公園への散歩をほぼ毎日行っている。	○	地域に施設の情報を発信し理解と協力しあえる関係作りを行ってゆきたい。(情報誌の発信や地域活動の参加等検討してゆく)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	家族の来訪時、または電話にて本人の状況を報告し理解して頂くよう努め・対応の方法等話し合い、可能な限り安全で安心した生活を送ることが出来る様サポートしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日常の観察に努め変化をいち早くキャッチし早期対応と情報の共有を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋のこまめなチェックと理解・把握に努め、薬の内容が変更になった場合は連絡ノートと申し送りを活用し職員全員で把握出来るようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排便チェック表を作り便秘しないよう注意している。また十分な水分摂取・運動等心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後必ず口腔ケアを行い、夜間は義歯のつけ置き消毒を行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できる よう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人にあった食事量とこまめな水分補給と水分量チ ェックを行っている。 水分を取ることを拒否される方もおられるため、食事や 寒天・ゼリーなどで摂取出来るようにも工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	手洗い・うがいの徹底と感染症を持ち込まない様、気をつ けている。	○	感染防止委員会の設置
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の 衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具やふきん等はこまめに消毒し、食材は使い切る ようにしている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出 入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関に花を植え家庭的にしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や 季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節にあった創作物を共に作成し展示したり、記念写真 を展示し工夫をしている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で 思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを置き共にTV視聴・談話・うたた寝とリラッ クス出来る環境を作っている。		
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使 い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせ るような工夫をしている。	馴染みの家具や思い出の物の持ち込みを勧め居心地よく 自分の居場所を作っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調 節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じ てこまめに行っている。	チェックしやすい様に室内の湿度・温度計を設置し、 こまめな換気と室温調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできる だけ自立した生活が送れるように工夫している。	共用部分に手摺の設置。滑り止めマットの活用。 馴染みの家具の持ち込み推奨している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立し て暮らせるように工夫している。	何が得意か？何がおこなえるのか？その日の個々の状態 を把握し安心して、出来る事は可能な限り行える様に サポートしている。		
87	○建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるよ うに活かしている。	プランターにてのガーデニング実施し、花苗選びから 花芽摘みや水やり、植え換え等行っている。		

V サービスの成果に関する項目 ハーモニー横川A

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいの ③ 家族等の1/3くらいの ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I 理念の基づく運営				
1 理念の共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	外出から帰ったらホッと出来る家を作ろう！！自分の大切な家族をあずけたくなる家を作ろう！！を目標に日々努力している。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	「障害を持つ方とその家族にほほえみを」を理念に安心して楽しく生活を営むことが出来るよう取り組んでいる。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	散歩・買い物にとどまらず地域に知って頂く努力をしてゆきたい	○	ホーム便り等 検討し啓発に努めてゆきたい
2 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	散歩時や買い物時に気軽に声をかけて頂いている	○	交流スペースの活用方法を広げてゆくよう検討してゆく
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	商店街の利用や散歩時には近隣の方と会話をもつ等 交流に努めている。	○	ホーム便り等 検討し啓発に努めてゆきたい

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	利用者と共に何が出来るか?を話し合はするものの体調不慮や天候等の兼ね合いもありなかなか実践出来ない。	○	公園の掃除等行ってゆきたい
3 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	見つけ直すきっかけとして必要な事は改善に努めている		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	実際の取り組みとそれによる効果を報告し意見を頂いている。		
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。	疑問があれば躊躇せず、まず聞いてみるという姿勢で質の向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。	必要と判断される場合は家族に勧める事もある。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	研修会の積極的な参加及び伝達講習を行う。また情報を共有する事により1人で悩みを抱え込まない様努め、虐待に結びつかない様に注意をはらっている。		
4 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約する際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	疑問点にはお答えし信頼関係に努め、安心して過ごしていただける環境を提供している。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらの運営に反映させている。	意見を取り入れたり反省材料にさせて頂いたりと前向きに取り組んでいる。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	利用者また家族により求められる事が違うため出来る限り求められる情報報告が出来るよう努めている。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議に伴い事前に要望等をあげて頂き運営に反映させる事が出来るよう支援している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者と話が出来る機会は設けているが、なかなか反映まで結びつかない。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	勤務調整は行っている。また、管理者は状況の変化を把握し必要時柔軟な対応が行えている。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	特別なことや職員のスキルアップが無い限り異動は実施していない。		
5 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	経験に応じた研修の参加等 実施している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	グループホームの勉強会に参加し情報交換に努めサービスの向上を図っている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	同僚の良いところを言い合う・悪口は言わない・お互いに注意しあえる関係作りに努め、働き易い職場を作ることを目指している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	悩みの共有と解決への努力に努めている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	信頼関係作りを大切にしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。	家族が考えて行く事が出来るよう悩みを共有し支援している。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	何が必要かを考え他のサービスを勧める事もある。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	見学や行事参加・体験入居を勧め少しでも不安が軽減出来るようサポートしている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	○本人を共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生きがい作りを支援し達成感を共に分かち合える様サポートしている。		
28	○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	その方と向き合い信頼関係を築き、また安心して話が出来るよう努力している。		
29	○本人を家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	若い頃からの本人との関係や認知症になられてからの家族の思いや葛藤・関係を充分把握に努め、かつ家族とよりよい関係及び支援がおこなえる様に支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族の依頼で面会制限がある方もおられるが、基本的には自由な面会を推進しており、たとえ本人が面会者を忘れておられても状況を察知しフォローに努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	閉じこもりを少なく出来るよう利用者同士が良い関係を築けるようサポートしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	相談しやすい雰囲気のもとにサービスが終了出来るよう心がけ、希望時は必ず相談に応じる。また必要時にはアプローチを行う場合もある。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
--	-----	---------------------------------	------------------------	---------------------------------

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個人の意向を大切にしているものの家族の事情もあるため、何が本人にとってベストなのか?とすることを念頭に家族と検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	生活歴から一層個人の理解が深まると考えており出来る限りの情報収集と情報の共有化に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	個々人の性格・その日の状態等把握しサポートしている		

2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ケアスタッフの情報を重視しまた本人の状況と希望を最大限尊重しながら家族の意向を踏まえ介護計画を立案している。		
37	○状況に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態が著しく変化した場合はその都度 ケア計画を変更している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ケアに取り組み 色々なアプローチが出来るように情報の共有化に努めており、個人にあったケアプランの作成を行っている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	可能な限り支援している。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	区民センター等の催しに参加したり、ボランティアの方と馴染みの関係が作れるよう支援している。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	他のサービスを利用したいとの意向は今の所見られないが必要に応じて検討していく。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議にての情報交換や日常においても相談しやすい関係作りに心がけている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。	入居者がホームドクターとの信頼関係を築ける様に支援している。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	必要時にはその都度 認知症専門の医療機関に相談出来ている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常勤看護師による健康管理および主治医との連携に努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関と協働 利用者が入院したときに安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時はこまめに面会にゆき不安感の軽減を図っている また、主治医や担当看護師、医療相談室とも連携をとり情報交換に努めている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い全員で方針を共有している。	入居時に重度化した場合の説明を行い、又 家族の意向等聞き取りながら、医療機関と連携もとりその方の将来の方針を考えている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	入居前より家族へ特養申込をして頂く様に働きかけ、情報を提供している。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに勤めている。	家族とともに本人にとっていつの時期に・どんなところが等、協議しながら情報を集めながら行っている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1 その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	個々の性格や個性を充分理解し尊敬の念を忘れずサポートしている。記録等は詰め所に保管している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	信頼関係と馴染みの顔になれる様努めながら、穏やかな生活を送ることが出来るよう支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日中ゴロゴロしないよう働きかけは行うが強制はしないようその方にあわせたサポートをしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	近隣でお店の協力も得られるようなら、家族に了承を得て支援している。化粧品や衣類等一緒に購入する事もある。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき た項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	共に食事をする事にチャレンジしてみたが、嚥下の悪い方等もおられ事故を未然に防ぐ事や早期発見を考慮し断念したが、食事中見守りをしながらお茶を頂いたり会話したりと和やかな雰囲気作りには努めている。調理や後片づけは共に行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒や煙草の希望があっても本人の疾患や薬の内容によっては困難な場合もある。おやつや飲み物は共に作ったり買い物に行ったりしている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	その方の排泄パターンに応じたトイレ誘導の実施と、可能な限りオムツ外しに努めている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	安全の確保に努めており必ず職員が介助している為、時間・曜日は決めているが、その時の状況により臨機応変に行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	生活のリズムが崩れない様に配慮しながら支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々の過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	趣味や興味のあることを探し出し楽しんで張りのある生活を送ることが出来るよう支援している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人が管理できる方は所持して頂き買い物等して頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	可能な限り散歩・買い物等外出している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している。	家族との外出は推進しているが、個々人の希望通りに施設の方から外出する支援は困難である。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自ら電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族の了解が得られる方は希望時には電話の使用をして頂くが、認知症の不定愁訴の場合は訴えを見極めて支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	家族と密に情報交換を行い、家族も居心地よく過ごせる関係作りに努めている。		
(4) 安心と安全を支える支援				

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者の尊厳を第一に考えている為、身体拘束は行わない。しかし生命の危機に関わる事が生じた場合は家族の承諾のもとで行う場合もある。(幸い現在までに行った事はない)		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	居室には希望者以外は施錠していないが、階段室等事故が起こりやすく、町中で車の通りも多いため家族の要望もあり十分な理解のもと施錠している。 1日1度は外出できる環境作りをおこなっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	常に利用者の把握に努めこまめな安否確認と訪室しやすい関係作りに努めている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	刃物や針などは施設の備品を使用して頂いているが、鏡や化粧品・シェーバー等はその方の状態にあわせ居室にお持ちである。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	緊急マニュアル作成し周知徹底と個々にあったケアに努めて事故防止をしている。		
70	○急変や事故発生の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期期に行っている。	応急処置・緊急マニュアル作成し、またミーティング時対応訓練を行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身に付け、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	利用者が避難訓練と理解できずパニックになられる方が多いため、職員が慌てず速やかに消火活動や誘導が出来るように訓練を実施している。また利用者は日々階段の登り下りと1次避難場所である公園への散歩をほぼ毎日行っている。	○	地域に施設の情報を発信し理解と協力しあえる関係作りを行ってゆきたい。(情報誌の発信や地域活動の参加等検討してゆく)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	家族の来訪時、または電話にて本人の状況を報告し理解して頂くよう努め・対応の方法等話し合い、可能な限り安全で安心した生活を送ることが出来る様サポートしている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日常の観察に努め変化をいち早くキャッチし早期対応と情報の共有を行っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	処方箋のこまめなチェックと理解・把握に努め、薬の内容が変更になった場合は連絡ノートと申し送りを活用し職員全員で把握出来るようにしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	排便チェック表を作り便秘しないよう注意している。また十分な水分摂取・運動等心がけている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後必ず口腔ケアを行い、夜間は義歯のつけ置き消毒を行っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べれる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できる よう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人一人にあった食事量とこまめな水分補給と水分量チ ェックを行っている。 水分を取ることを拒否される方もおられるため、食事や 寒天・ゼリーなどで摂取出来るようにも工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している。 (インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウィルス等)	手洗い・うがいの徹底と感染症を持ち込まない様、気をつ けている。	○	感染防止委員会の設置
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の 衛星管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	調理器具やふきん等はこまめに消毒し、食材は使い切る ようにしている。		
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出 入りが出来るように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	玄関に花を植え家庭的にしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や 季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節にあった創作物を共に作成し展示したり、記念写真 を展示し工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共有空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で 思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	ソファを置き共にTV視聴・談話・うたた寝とリラク クス出来る環境を作っている。		

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	馴染みの家具や思い出の物の持ち込みを勧め居心地よく自分の居場所を作っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	チェックしやすい様に室内の湿度・温度計を設置し、こまめな換気と室温調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	共用部分に手摺の設置。滑り止めマットの活用。 馴染みの家具の持ち込み推奨している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	何が得意か？何がおこなえるのか？その日の個々の状態を把握し安心して、出来る事は可能な限り行える様にサポートしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	プランターにてのガーデニング実施し、花苗選びから花芽摘みや水やり、植え換え等行っている。		

V サービスの成果に関する項目Bユニット

88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいの○ ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	① 毎日ある○ ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	① ほぼ全ての利用者が○ ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが○ ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	① ほぼ全ての利用者の ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが○ ④ ほとんど掴んでいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	① ほぼ全ての利用者が○ ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが○ ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない

95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	① ほぼ全ての家族と ② 家族の2/3くらいと・・・・・・○ ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに・・・・・・・・・○ ④ ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	① 大いに増えている ② 少しずつ増えている・・・・・・○ ③ あまり増えていない ④ 全くいない
98	職員は、生き生きと働いている。	① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが・・・・○ ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが・・・・○ ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんど掴んでいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいと・・・・○ ③ 家族等の1/3くらいと ④ ほとんどできていない

※ は、外部評価との共通項目